

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 7 日現在

機関番号：13701

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23730653

研究課題名(和文)日本におけるロールシャッハ法の輸入過程と発展過程の検討

研究課題名(英文) Historical study on the Rorschach's Inkblot Method in Japan: its import process and development process.

研究代表者

佐渡 忠洋 (Sado, Tadahiro)

岐阜大学・保健管理センター・助教

研究者番号：60510576

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円、(間接経費) 480,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は日本のロールシャッハ法(Rorschach's Inkblot Method: RIM)の歴史、特にその輸入過程と発展過程を明らかにすることである。
成果としては、1)1930年以前に導入がいくらか明確になった、2)研究論文は1959年までに273編も報告されていた、3)1930年代は精神科臨床の研究が多く、1950年代は犯罪学や人類学の研究が多かった、4)日本の研究者は11の新図版を制作してきた、5)スイスでのフィールド調査で若干の新事実が見いだされた、6)RIMはバウムテストや風景構成法とは異なる発展過程を経た、がある。
今後の課題はRIM史から臨床心理学史の素描することである。

研究成果の概要(英文)：The subject of this study was to clarify the history of the Rorschach's Inkblot Method (RIM) in Japan, in particular, its import process and development process.
The results were as follow: 1) RIM was introduced in Japan before 1930; 2) 273 papers published until 1959; 3) although psychiatric practice was main research field in 1930s, criminal and anthropological researches was the predominant in 1950s; 4) Japanese scholars had make 11 new inkblot plates; 5) new historical facts was found through field work in Switzerland; 6) development history of RIM is different from another projective method including the Baum test and the Landscape Montage Technique.
The future issue is to outline the history of clinical psychology in Japan throughout the RIM history in Japan.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：心理学・臨床心理学

キーワード：歴史性 研究者 投影法 精神診断学 文献研究 フィールド調査 新図版

1. 研究開始当初の背景

心理アセスメント技法で最も代表的なものにロールシャッハ法 (Rorschach's Inkblot Method: RIM) がある。1921年にスイスの精神科医 Hermann Rorschach (1884-1922) が創案した本技法は、臨床心理学という学問を牽引してきたと言っても過言ではない。RIM に対する種々の批判はあるけれど¹⁾、臨床場面での有用性は多くの実践者・研究者が認めるところである。

諸外国では、RIM の歴史的研究は多く存在する^{2, 3)}など。ここでは RIM そのものの発展過程や、各国での発展過程、Hermann Rorschach と RIM の哲学が検討されている。「現在は過去を孕み、未来を担う」(ライプニッツ)の言を引くまでもなく、学問や技法の歴史を検討することは、今後の発展に不可欠である。しかしながら、日本ではそうした歴史的研究は心理学全般でほとんどされていない。そのため、例えば RIM では、輸入過程が不明確だけでなく、日本においてどのように RIM が発展してきたかもほとんど検討されないでいる。

RIM はあと数年で生誕 100 年を迎える伝統的な技法であり、今日でも錆びつくことなく、現場で威力を発揮し続けている。そこで本研究代表者は RIM の歴史を繙き、日本の RIM 史をいくらか粗描して、その知見をわが国の研究者へ、そして世界へ発信することが必要であると考えた。

文献

- 1) Wood, J., Nezworski, M.T., Lilienfeld, S.O. and Garb, H.N. (2003). *What's wrong with the Rorschach?: since confronts the controversial inkblot test*. San Francisco, CA: Jossey-Bass. 宮崎謙一訳 (2006). ロールシャッハテストはまちがっている 科学からの異議. 北大路書房.
- 2) Ellenberger, H.F. (1954). *The life and work of Hermann Rorschach (1884-1922)*. Bulletin of the Menninger Clinic, 18(5), 173-219. 中井久夫訳 (1999). ヘルマン・ロールシャッハの生涯と仕事. In: 中井久夫編訳, エランベルジェ著作集 1 無意識のバイオニアと患者たち. みすず書房. pp.3-82.
- 3) Akavia, N. (2013). *Subjectivity in motion: Life, art, and movement in the work of Hermann Rorschach*. New York and London: Routledge.

2. 研究の目的

上述の背景より、本研究の目的を次のように設けた。

目的 : 日本における RIM の輸入過程を明らかにする。

そのために、1950 年代までの研究特徴を検討するとともに、初期の研究者である岡田強と内田勇三郎に関する歴史的研究を行う。

目的 : 日本における RIM の発展過程を明

らかにする。

そのために、新図版制作という観点から日本の RIM 史の特徴を検討するとともに、1960 年代から大きな影響力を発揮した河合隼雄と藤岡善愛に関する歴史的研究を行う。

3. 研究の方法

上の目的から、7 つの研究 (A~G) を行った。

研究 A : RIM 輸入時期の特定

いつ・だれが・どのような形で、日本に RIM を導入したかは、今日まで明らかではない。

そこで文献調査より、この時期と人物と動向などを明確化することにした。

研究 B : RIM 邦文献一覧の制作

歴史的研究を推進していくためには、資料の収集・整理をまず行わなくてはならない。そこで、RIM の邦文献一覧を作成することとした。

『NII 論文情報ナビゲータ』や『Journal Archive』などのデータベースを用いて、「ロールシャッハ」「ロールシャハ」「Rorschach」で論文を検索し、該当した 1985 年までの文献をすべて収集した。さらに、収集した論文と出版されているすべての RIM 専門書籍の引用文献を精査する方法でも文献を検索した。その作業を新たな文献が発見されなくなるまで続けた。その後、抄録および一覧に加えることは無意味であると判断された文献 (本文中で「代表的な投映法にロールシャッハ法がある」や「ロールシャッハ法の研究でも同様の報告がある」など、技法への言及にとどまり、RIM の文献とは判断しがたいもの) は除いた。

研究 C : 黎明期の研究特徴の検討

上の研究 B で収集した論文を対象に、わが国の RIM 黎明期の研究特徴を明らかにする。

検討の対象は 1959 年までに報告された 273 編である。黎明期にどのような研究がなされたかを検討するために、全論文を 12 の研究内容に分類した。さらに、どの研究者が RIM 発展に寄与したかを検討するために、上の 273 編の論文において、第一著者に 3 ポイントを、第二著者以下に 1 ポイントを与えて計算する方法で貢献度を分析した。

研究 D : RIM 研究者に関する歴史的研究

日本の RIM 輸入過程を検討するために、岡田強と内田勇三郎に関して研究を行う。そのために、彼らの研究業績を検討し、ご遺族や関係者へのインタビューを行った。実際にインタビューを行えたのは、内田勇三郎氏の御長男、内田純平氏 (2012 年 12 月 11 日, in 日本精神技術研究所) 岡田強が岐阜大学精神医学教室初代教授時に助教授を務めた杉本直人氏 (2014 年 2 月 14 日, in 各務原病院)

である。

日本のRIM発展過程を検討するために、河合隼雄と藤岡善愛に関して研究を行う。そのために、彼らの研究業績を検討した。

研究E：新図版制作から見た日本RIM史

種々の歴史的研究を通して、日本は諸外国に比べ、新図版を多く制作してきたことが分かった。この特徴は、日本のRIM史の顕著な特徴であると考えられた。

そこで、各新図版が制作された時と、日本のRIM発展特徴との関連を吟味することで、日本のRIM史の特徴を描き出すこととした。

研究F：Rorschachのフィールド調査

RIMという技法そのものの理解を深めるために、Hermann Rorschachに関する調査もおこなった。

2012年7月にスイスを訪ね、彼の生家や勤務した病院も訪ねた。その際、スイスの精神医学史家であるRita Signer女史、Spital Thurgau AGのPsychiatrische Dienste Thurgau部長であるGerhard Dammann博士と会い、ディスカッションをした。

研究G：他技法の研究

RIMの特徴を浮かび上がらせるためには、他技法と比較するという方法論が有用であろう。そのため、ここでは特にbaumテストと風景構成法に関する歴史的・実験的研究も行った。RIM史を粗描するためには足場も固めなければならず、これらは本研究において不可避の作業・研究であった。

4. 研究成果

研究A：RIM輸入時期の特定

『精神診断学』刊行の1921年とは、世界的には第一次世界大戦(1914-1918)と、スペイン風邪の大流行(1918-1919)が甚大な被害を及ぼした直後であり、日本では大正後期にあたる。筆者らが調べた限り、Rorschachの研究を最初に引用したのは1919年、田村於菟(当時岡山医学専門学校)の論文においてであった¹⁾。そこで引用されたのは、興味深いことにEllenberger²⁾が「インスピレーションにもとづいていない」と評した、Rorschach唯一の生物学的研究であった³⁾。それ以前の1913年には、『神経学雑誌』において、Rorschachの論文⁴⁾の要約が報告されていた⁵⁾。1923年には、Otto Klemm(当時ライプツヒヒ大学)から松本亦太郎(当時東京帝国大学)へ宛てた学会報告の中でRIMへの言及があり、それは邦訳して『日本心理學雑誌』に掲載されている⁶⁾。また同年9月1日に生じた関東大震災の被害に対し、国際連盟が東京帝国大学図書館復興援助を決議し⁷⁾、スイスから『精神診断学』が寄贈され、今も東大図書館に所蔵されている。さらに、内田勇三郎が東京の古書店で『精神診断学』を見

つけたのは1925年のことだという⁸⁾。その後、RIMの実践と研究が始まり、1930年、1つの学会発表がなされ、4編の学術論文が発刊された^{9)・10)}。現在のところ、これらの事実が日本のRIMの始まりであると考えられる。Lang¹¹⁾の文献情報によると、1929年以前に英独仏語圏でのRIM研究は29編しか報告されていないので、極東の日本は、世界でも早い研究着手を行った国なのが見える。

以上から、『精神診断学』初版は1930年までに、東大図書館・内田・岡田と、少なくとも3冊が日本に存在していた(『精神診断学』の第2版は1932年刊)。しかし、内田と岡田の手にした初版がどのような経緯で渡ってきたかは、明らかにはなっていない。精神医学史家Rita Signer¹²⁾女史によると、初版は当時欧州でも簡単に入手できなかったというから、やはり興味深いことといえる。

このように、いくらか歴史的事実を整理でき、日本のRIM最初期の一部は描出できた。しかし、技法の輸入過程を具体的に特定するには至らなかった。今後の課題として残っている。**論文投稿中(研究Fの成果とともに)**

文献

- 1) 田中於菟(1919). 松葉線腫瘍ノ一例. 岡山醫學會雑誌, 31(352), 385-392.
- 2) Ellenberger, H.F. (1954). The life and work of Hermann Rorschach (1884-1922). *Bulletin of the Menninger Clinic*, 18(5), 173-219. [中井久夫訳(1999) ヘルマン・ロールシャッハの生涯と仕事. In; エランベルジェ著作集 1 無意識のバイオニアと患者たち. みすず書房. pp.3-82.]
- 3) Rorschach, H. (1913). Zur Pathologie und Operabilität der Tumoren der Zirbeldrüse. *Beitrag zur klinischen Chirurgie*, 83, 451-474.
- 4) Rorschach, H. (1912). Pferdediebstahl im Dämmerzustand. *Archiv für Kriminal-Anthropologie und Kriminalistik*, 49, 175-180.
- 5) (1913). 朦朧状態中ニ行ヘル馬盜. 神経学雑誌, 12(4), 197.
- 6) クレム, O. (1923). ライプツヒヒに於ける第八回心理學大會(一九二三年四月十七日~廿日). 日本心理學雑誌, 1(4), 539-553.
- 7) 東京大学図書館 Web サイト. 東京大学図書館の略史(関東大震災後). <http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/tenjikai/tenjikai95/history-b.html>, Jan. 17, 2014
- 8) 秋山誠一郎(1963). 内田勇三郎博士とロールシャッハ法. ロールシャッハ研究, IX-X, 241-244.
- 9) 岡田強(1930). ロールシャッハ氏ノ所謂「精神診断学」ノ實驗的考察(第一回報告) ロールシャッハ氏精神診断學用「テキスト」ニ於ケル形態並ビニ意味ノ研究. 神経學雑誌, 32(5), 43-55.
- 10) 内田勇三郎(1930). 素質型と其の心理學的診斷(クロモシリーズ). 三省堂.
- 11) Lang, A. (Hrsg.) (1966). *Rorschach-Bibliographie*. Bern und Stuttgart: Hans Huber.
- 12) Signer, R. (2012). Personal Communication. Zentrum Paul Klee. Jul. 18, 2012.

研究 B : RIM 邦文献一覧の制作

まず、1959 年までに報告された 273 編の論文、2011 年までに報告された 123 冊の専門書籍と 95 編の博士論文を一覧にして報告した。

1959 年までの論文数の推移を、5 年間隔で示したのが図 1 である。ここより、1950 年代後半から RIM 研究が急増したことが分かる。

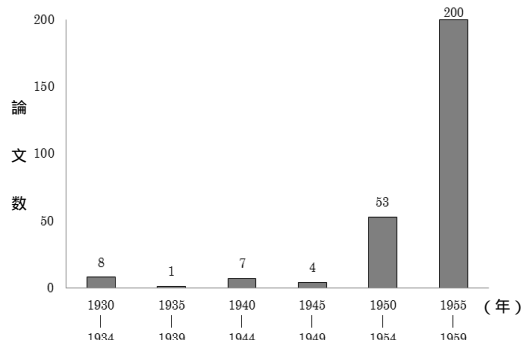


図 1 1930-1959 年までの論文数の推移

今日までに出版された RIM 専門書籍数の推移を、10 年間隔で示したのが図 2 である。ここより、1950 年代以降、顕著な増減もなく専門書籍は出版されたことが分かる。

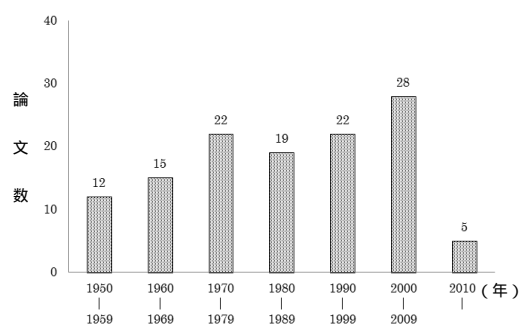


図 2 現在までの専門書籍数の推移

今日までの RIM が中心に据えられた博士論文数の推移を、10 年間隔で示したのが図 3 である。ここより、1960 年代が最も数が多かった。したがって、日本における RIM 研究の最盛期は 1960 年代と定めることが妥当であると考えられた。

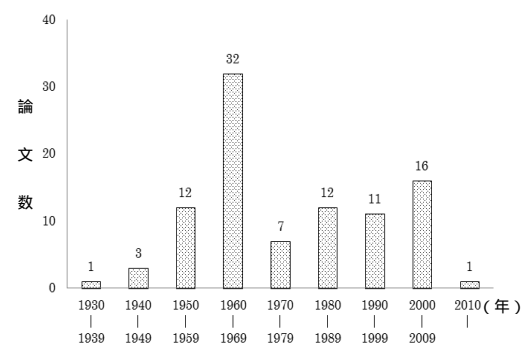


図 3 現在までの専門書籍数の推移

なお、1979 年までの文献一覧を作成中であるが、数点確認を終えることができていないため、まだ報告できてはいない。1960~1969 年の間に約 500 編の論文が、1970~1979 年の間に約 400 編の論文があることは言及しておきたい。今後確認が済み次第、論文として刊行し、学術リポジトリによって pdf で公開する予定である。これらは RIM 研究者に役立つ資料となる。【**学術論文**】

研究 C : 黎明期の研究特徴の検討

1960 年代を RIM の最盛期と考えると、1930~1950 年代は、幅広い期間ではあるけれど、RIM の黎明期と定めて問題はないと考えられる。分類および計算結果から、RIM 黎明期の特徴として、次のことが明らかになった。

研究内容に関しては、1930 年代は精神科臨床と基礎研究の論文が多かった。1935~1949 年は当時の社会状況もあり研究が盛んでないためなんとも言い難い。1950 年になると研究数は飛躍的に増加し、多方面から行われるようになった。その結果、非行や犯罪、人類学に関する研究が特に増加した。

発展に貢献した研究者に関しては、1930 年代は岡田強と内田勇三郎の研究が多く、後の研究に影響を与えたことが示唆された。一方、1950 年代は、長坂五朗と片口安史、藤岡善愛による研究が多く報告されており、彼らの業績が 1960 年代の RIM 最盛期を支えたことが示唆された。【**学術論文**】

研究 D : RIM 研究者に関する歴史的研究

岡田強と内田勇三郎に関しては、かなりの資料が収集できた。一方、河合隼雄と藤岡善愛に関しては、十分に資料を収集できなかった。したがって、これらの研究は今後も継続しなければならない。歴史的な研究は展開と共にいくつか新しい事実を発見するため、もう少し時間をかけて行わなければならないことが自覚できた。

今後、資料収集と分析を継続し、整理できたものから順次報告する予定である。

研究 E : 新図版制作から見た日本 RIM 史

本研究の調査により、日本では 11 の新しい図版が制作させてきたことが明らかになった。制作者の名前を用い、年代順にそれらを示すと、内田図版(1930 年)、守屋図版(1945 年)、阿部図版(1950 年)、早大図版(1950 年)、早大図版 P(1955 年)、警察庁図版(発行年不明)、ABC 図版(1960 年)、片口図版(1961 年)、佐藤図版(1963 年)、SO 図版(1970 年)、カ口図版(1970 年)となる。

上の 11 の図版は、1958 年頃を目安に、その目的と意義を分けて考えるべきであろう。

多くの臨床家が一度は手にする片口の『心理診断法』初版は 1956 年に出版された¹⁾。本書は、日本人による最初の RIM の体系的な手引書で、その後何度も改訂を経ている。また 1958 年には、『精神診断学』が邦訳出版され²⁾、

研究雑誌『ロールシャッハ研究』が刊行を開始し³⁾、『ロールシャッハ・テスト 1&2』も出版された^{4)・5)}。そして何より、同年に『標準ロールシャッハ図版』⁶⁾が東京の牧書店から販売されることにより、専門家の多くが原図版を入手しやすくなった。このように、1958年頃に研究と実践の環境が一気に整い始めたのである。その結果、RIM 発展の基盤が築かれ、日本の RIM 史は 1960 年代に黄金時代を迎えるに至った。

したがって、内田図版からおそらく警察庁図版までと、ABC 図版からカ口図版までとには、研究者らが置かれた情勢と環境が全く異なっていたことを踏まえて、図版制作の意義を考えねばならない。つまり、前者は原図版が入手しにくい環境の中で制作されたものであり、多かれ少なかれ、原図版の渴望下で制作されたと考えるべきであろう。一方後者は、精密なパラレルシリーズの制作のためや（片口図版とカ口図版）、統制実験を行うため（佐藤図版と S0 図版）、そして実践的課題をのり越えるため（ABC 図版）と、一層踏み込んだ RIM 研究の中で制作されたと理解できた。**【学会発表 ・ 論文投稿中】**

文献

- 1) 片口安史 (1956). 心理診断法 ロールシャッハ・テスト. 牧書店.
- 2) Rorschach, H. (1921). Psychodiagnostik: Methodik und Ergebnisse eines wahrnehmungsdiagnostischen Experiments [Deutenlassen von Zufallsformen]. Bern: Hans Huber. [東京ロールシャッハ研究会誌 (1958). 精神診断学 知覚診断的実験の方法と結果 (偶然図形の判断). 牧書店.]
- 3) 東京ロールシャッハ研究会編 (1958b). ロールシャッハ研究 I. 牧書店.
- 4) 戸川行男・松村常男・児玉省ほか監修 (1958a). ロールシャッハ・テスト 1 (心理診断法双書, 第 1 巻). 中山書店.
- 5) 戸川行男・松村常男・児玉省ほか監修 (1958b). ロールシャッハ・テスト 2 (心理診断法双書, 第 2 巻). 中山書店.
- 6) 東京ロールシャッハ研究会監修 (1958a). 標準ロールシャッハ図版. 牧書店.

研究 F : Rorschach のフィールド調査

チューリッヒの Hermann Rorschach の生家 (図 4) のほか、トゥルーガウ、ヴァルダウ、クロームバッハにある精神病院を尋ねた。

Hermann Rorschach の書簡集を編んだ Rita Signer 女史とのディスカッションでは、多くの示唆を得た。特に、Hermann Rorschach がもう少し生きていれば、精神分析の影響で、RIM の内容分析の研究をおこなったのではないかと、という彼女の推測は、実に興味深かった。

Gerhard Dammann 博士には、病院内に残っている古い病棟などを丁寧に案内してもらった。しかし、病院の倉庫に Hermann Rorschach に関する資料はまったく残っておらず、唯一彼の博士論文だけがあるとのこと

だった。

本調査によって、幾つか新しい歴史的事実が得られた。その結果は多くの写真記録とともに印象記として報告した。**【学術論文】**



図 4 Hermann Rorschach の生家

研究 G : 他技法の研究

バウムテストや風景構成法の文献一覧を作成し、種々の調査も行った。文献一覧に関しては、私の調査では、バウムテストが 1958 ~ 2010 年の間に 796 編の論文があり、風景構成法は 1970 ~ 2012 年の間に 462 編の論文があることが判明した。したがって、RIM の発表論文数は、これら他の代表的な心理アセスメント技法と比べても、抜きん出ていることが明らかになった。また、研究の変遷に関しても、RIM はバウムテストや風景構成法とはことなる発展過程を経てきたことが明らかになった。**【学術論文 ・ 図書 ・ 論文投稿中】**

他技法に他の知見に関しては、次項の「主な発表論文等」に記したものを参照されたい。

5 . 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 10 件)

佐渡忠洋 スイスにヘルマン・ロールシャッハをたずねて. 岐阜大学心理教育相談研究, 13. 2014. In Press.

佐渡忠洋・鈴木壯 バウムテストの幹先端処理について II: 提唱以後の研究動向. 岐阜大学教育学部研究報告 (人文科学), 62(2): 229-242. 2014. 査読なし.

佐渡忠洋・鈴木壯 バウムテストの幹先端処理について I: 原則と諸問題. 岐阜大学教育学部研究報告 (人文科学), 62(2): 217-228. 2014. 査読なし.

佐渡忠洋・坂本佳織・岸本寛史 個別法と集団法のバウムテストにおける幹表面の表現の比較. 臨床心理学, 14(2): 256-263. 2014. 査読あり.

佐渡忠洋・田口多恵・緒賀郷志 風景構成法研究の特徴と変遷. 岐阜大学教育学部研究報告 (人文科学), 61(2): 183-190. 2013. 査読なし.

<http://www.ed.gifu-u.ac.jp/~kyoiku/info/zinbun/pdf/610215.pdf>

坂本佳織・佐渡忠洋・岸本寛史 バウムテストのスポットライト分析. 心理臨床学研究, 30(1): 41-50. 2012. 査読あり.

佐渡忠洋 カール・コッホの『Der Baumtest』翻訳史. 岐阜大学心理教育相談室紀要, 11: 149-158. 2012. 査読なし.

佐渡忠洋・鈴木壯・田中生雅・山本眞由美 バウムの描画プロセスに関する研究: バウムはどこから描かれ、幹はどのように構成されるのか. 臨床心理身体運動学研究, 15(1): 59-68. 2012. 査読あり.

佐渡忠洋・伊藤宗親・田中生雅・山本眞由美 日本におけるロールシャッハ法黎明期の研究の特徴. 岐阜大学カリキュラム開発研究, 30(1): 39-45. 2012. 査読なし.

http://repository.lib.gifu-u.ac.jp/bitstream/123456789/44155/1/sen_022901004.pdf

佐渡忠洋・田口多恵・伊藤宗親・田中生雅・山本眞由美 本邦におけるロールシャッハ法の文献一覧: 1959年までの黎明期. 岐阜大学カリキュラム開発研究, 30(1): 24-38. 2012. 査読なし.

http://repository.lib.gifu-u.ac.jp/bitstream/123456789/44154/1/sen_022901003.pdf

〔学会発表〕(計 7 件)

Sado, T., Nishio, A. and Yamamoto, M. Historical Discussion on the Production of New Inkblot Plates in Japan. XXI International Congress of the Rorschach and Projective Methods, July 15-19, 2014. Istanbul University, Istanbul, Turkey. 【発表確定】

佐渡忠洋・西尾彰泰・山本眞由美 日本でのインクプロット図版制作に関する歴史的検討. 日本ロールシャッハ学会第16回大会, 11月2-3日, 2013年. 花園大学, 京都.

佐渡忠洋・松本香奈 投影空間の特徴がバウム表現に与える影響: 画用紙の向き(縦長 vs. 横長)とサイズ(A4 vs. B5)の検討から. 日本臨床心理身体運動学会第16回大会, 9月7-8日, 2013年. 金城学院大学, 愛知.

佐渡忠洋 バウムテストの幹先端処理研究に関するレビュー. 日本心理臨床学会第32回秋季大会, 8月25-28日, 2013年. パシフィコ横浜, 神奈川.

佐渡忠洋 卒業と学生相談に関する一考察: 卒業前に来談した学生との面接から. 日本学生相談学会第31回大会, 5月18-20日, 2013年. 琉球大学, 沖縄.

佐渡忠洋 学生相談での女子学生との面接過程. 日本臨床心理身体運動学会第41回研修会(第59回SPACE研究会), 10月2日, 2011年. 猿沢荘, 奈良.

Sado, T., Suzuki, M., Tanaka, M., Yamamoto, M. A study for the process of the Baum-drawing. XX International Congress of the Rorschach and Projective Methods, July 17-20, 2011. National Institution for the Promotion of Youth Education. Tokyo, Japan.

〔図書〕(計 4 件)

佐渡忠洋 付録 風景構成法文献一覧(1970~2012年). In; 岸本寛史・山愛美(編) 臨床風景構成法: 臨床と研究のための見方・入り方. 誠信書房, pp. 256-283. 2013.

佐渡忠洋 風景構成法研究の概観. In; 岸本寛史・山愛美(編) 臨床風景構成法: 臨床と研究のための見方・入り方. 誠信書房, pp. 44-62. 2013.

佐渡忠洋 付録 日本のバウムテスト文献一覧(1958~2010年). In; 山中康裕・岸本寛史, コッホの「バウムテスト[第三版]」を読む. 創元社, pp. 220-266. 2011.

佐渡忠洋 バウムテスト研究の可能性. In; 岸本寛史(編) 臨床バウム: 治療的媒体としてのバウムテスト. 誠信書房, pp. 28-43. 2011.

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐渡 忠洋 (SADO, Tadahiro)
岐阜大学・保健管理センター・助教
研究者番号: 60510576